



# KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊/数学教育/渡辺 崇人

2024 年 3 月 3 日 Vol.10

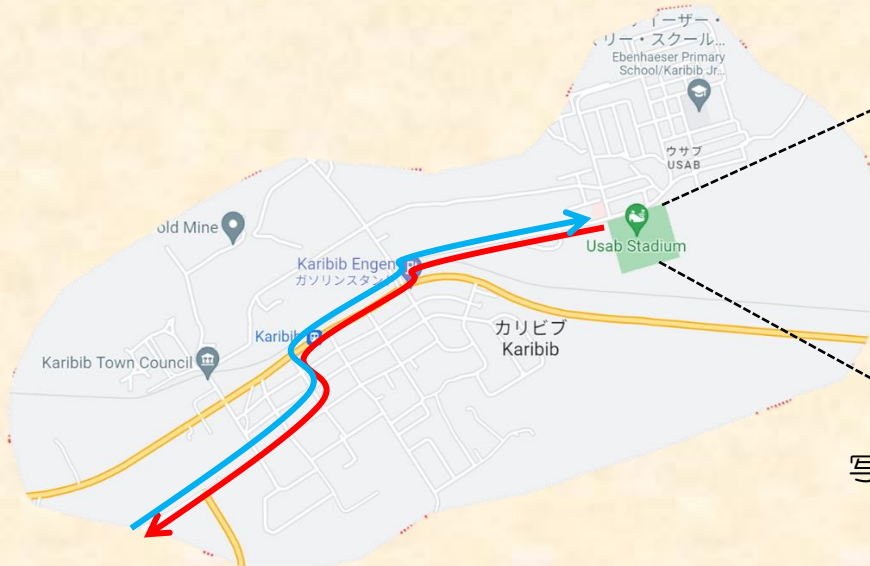


写真 1 : スタート・ゴール地点の様子

図 1 : マラソンのコース (赤 : 往路、青 : 復路)

2023 年 9 月 16 日(土)、赴任前より気になっていたイベントの一つである強国アフリカのマラソン大会に参加しました。その名も『NAVACHAB HALF MARATHON』。文字通りのハーフマラソンですが、距離は①21km、②10km、③5km の 3 部門から選べます。この大会へのそもそもの参加のきっかけは、配属先に大会要項が届いた際に校長をはじめ各先生方から「Taka、この大会に参加して賞金を獲ってきてちょうだい。絶対参加するのよ。」と言われたことです。そう、この大会の目玉の 1 つは入賞賞金です。エントリー費で 1 人 N\$80 (≒640 円) がかかりますが、①21km の部で優勝すれば、なんと賞金 N\$10,000 (≒80,000 円) が手に入り、7 着まで順位に応じた賞金が貰えます。ただ僕は暫く走っていなかったため、怪我で仕事に支障が出たら元も子もないと思い、今年は②10km 部門に参加しました。

さてコースですが、折り返し地点だけが各部門で異なり、その他は同じ往路と復路のあるコースです(図 1)。そのため、全員がスタートとゴール共に vol.4 で少し紹介しましたサッカーコートでした(写真 1)。先に①21km の部が出走し、約 30 分後に②10km の部が、その約 30 分後に③5km の部が出走する流れとなっていました。そんな自分の出

走時間はなんと午前 6:30!! 最初は見間違いかと思いましたが、アフリカは暑さも考慮してか、仕事やイベントの開始時間が早朝に設定されていることが少なくないため、それを信じて、当日早朝のまだ夜が明けきっていない中で会場に向かいました。途中、本当

にこの時間で合っているのだろうかと一抹の不安がありました。会場に着くと予想以上の人数ばかりでした。



写真2（左）、写真3（右）：遭遇した生徒と撮った写真

周りの人に聞きながらなんとか受付を済ませ、その後何人かの生徒とも会い『先生、どの部門に出るの？』『10kmだよ。』『一緒だ、頑張ろうね！』などほのぼのした会話を交えながら自身のスタートを待ちます（写真2、3）。時計を見ると7:20。安定の[アフリカニタイム](#)<sup>1</sup>でホーム感を覚えます。ただそれでも途中でコースが分からなくなるかもと頭をよぎったため、たまたまスタート地点にいた陽気に歌っていらっしゃるピンク色の服のご婦人を見つけ、失礼ながら「この人なら付いて行けるだろう」と付いていくことにしました。

数分後 10kmの部が一齐にスタートしました。今日の自分の目標は“途中で歩かないこと、完走すること”です。しかし早々に計画が破綻します。先ほどのご婦人は気付いた頃には視界から遠く消えている、比較ならない位速い方でした。付いて行けそうと思った自分が情けなくなりました。ただ、コースの途中には所々係員が立っており、結果的に迷うことはありませんでした。沿道では何人もが声援を送ってくれ、気温は高かったものの心地よく走ることができました。

往路の途中、先に復路に入っていた生徒から、すれ違い様に『先生、なんでこんな所にいるんだよ！もっとペースを上げて！前に、前に！』と箱根駅伝ばりの叱咤激励を受けましたが、「後で、会おう……」

としか返す余裕がなく、こっちの人たちは本当に体力があるなと感心していました。しかし、復路に入るとその差がより顕著になります。皆のペースが一つ上がったのです。そのため、今まで自分の後方にいたランナー達もこそって自分を抜いていきました。自分も負けじとついていこうと思いましたが、高齢者の歩行速度と同じ速度しか出ず…。諦めて自分の目標達成に集中します。ただその途中、後ろからダッシュに近いペースで迫ってくる

<sup>1</sup> 通常の開始予定時刻よりも遅れてスタートすること。

ランナーがおり“いくらなんでもペース上げすぎでしょう、あと4km 近くあるから途中で力尽きるぞ”と思っていた所、なんとパトカーもいたため“まさか何かの犯人がランナーに交じて逃走しているのか？だからこんなに速いのか。しかし、アフリカのマラソン大会は世界観が違うな。”と驚いていました。ところがその人がゼッケンをしていたことから勘違いだと気づき、すぐに①21kmの部の首位走者であることが分かりました。なんと倍近い距離を走っている人に軽々と抜かれてしまったわけです。こちらのトップ層がどんなペースなのか少しでも体感したかったため、頑張っけて付いていこうとしましたが、当然1mももたず…。よく速い方の走りを“バネが違う”と耳にすることがあると思いますが、まさしくその人は“バネを使って跳んでいる”ような走りでした。結局、同部の上位5人ほどに抜かれましたが、マラソン強国アフリカのトップ層の走りを間近で体感できたことは大きな収穫であったと共に、自身の努力どうこうでは追いつけないということがよく分かりました。



写真4：大会参加賞

最終のタイムは57分とかなりゆっくりなペースでしたが完走し、目標も何とか達成でき、怪我無く終われたためよかったです。

最後に参加賞もいただき(写真4)、アフリカの気候の中でこちらのランナーのペースも少しだけ体感できたため、本当に貴重な経験となりました。

次の2024年大会では21kmの部に挑戦しようと思います♪

### ちょこっと余談



(写真は、テレビ朝日「～なぜここにいるの?～ごみ物語」2023年10月19日放送回より引用)  
実は以前、テレビ朝日の方より世界のゴミについて放送したいから写真があれば欲しい旨の依頼を知人づてにいただいたため、Karibibのものを送らせていただいたところ、左のとうもろこしの芯を採用していただきました。その放送の中で出演者から「アフリカのマラソンでは給水所でこれを渡しているのでは？」(写真右)とあったため、答えさせていただきます。きちんと**ペットボトル入りの水が支給されます**。現場からは以上です(-w-)/

次回：豪華！食事付きの職員会議・研修の様子について紹介します！